

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 707 号 令和 2 年 4 月

## 獣医学過程優等卒業生への表彰状授与

常務理事 福島和彦

令和 2 年 3 月 24 日（火）に予定されていた山口大学共同獣医学部獣医学科 3 期生（33 名）の学位授与式が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

式典自体は、中止になりましたが、優等卒業生への日本獣医師会会長表彰と山口県獣医師会会長表彰の授与は、佐藤晃一学部長から手交されました。

受賞された学生から次の様な感想と抱負が県獣医師会に寄せられました。



佐藤学部長(左)、岡田彰三氏(中央)、谷教授(右)



佐藤学部長(左)、上村耕一郎氏(中央)、谷教授(右)

### 日本獣医師会会長賞を授与された際の感想と今後の抱負

この度は大変名誉ある日本獣医師会会長賞を授与頂き、大変深く感謝しております。山口大学共同獣医学部に入学してからの 6 年間は、EAEVE 認証(欧州獣医学教育認証)の取得に伴って、講義と実習がより充実したものとなり、素晴らしい先生方の御指導の下、獣医師を目指す同士である仲間と切磋琢磨し、励まし合いながら、獣医学生としての自覚や責任感を持ち、それらの講義や実習に取り組んでまいりました。

特に、EAEVE 認証の際には学生代表として学生全体

### 岡田 彰三氏

の意見の取りまとめや欧州からの視察団の方々への対応をさせていただきました。それらの経験は自身の至らぬ点を再認識する良い機会となり、今後の人生を歩んでいくうえで非常に有意義なものとなりました。

今後は、山口大学共同獣医学部の卒業生であることを誇りとして、大学で仲間と共に学んだ数多くの知識や技術を活かして、公衆衛生・畜産の安全に貢献し、社会の期待に応えられる獣医師として、日々精進してまいります。

### 山口県獣医師会会長賞を授与された際の感想と今後の抱負

### 上村 耕一郎氏

この度は名誉ある山口県獣医師会会長賞をいただき、大変うれしく思います。

大学に入学して 6 年間、多種多様な将来を思い描く仲間と、互いに刺激を受けながら獣医師を目指してきました。自分にはない知識や技術、経験を持つ周囲の人と自らを比べ、落ち込んだ時もありましたが、とにかく真面目にコツコツと取り組んできたことが、このような賞をいただくという結果につながったと思います。

山口大学共同獣医学部ではカリキュラムの変更によって実習の時間が増え、その分多くの経験を積むこ

とができました。大学の先生方はもちろん、特に山口県内の各業種で活躍される獣医師の先生方には、授業や学外実習など多くの場面でご指導いただきました。実際に獣医師が働く現場を見て学んだことはとても印象深く、私たちにとって大変貴重な経験となりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

私は 4 月から故郷である静岡で、県の畜産振興や感染症の防疫に取り組むことになりました。大学で学んだことを活かし、今後も少しずつ経験を積んで、地域の畜産業に貢献できるよう努めてまいります。

## 予告

## 令和 2 年度定時総会の開催

- 日 時 令和 2 年 6 月 14 日（日）午前 10 時から
- 場 所 山口県獣医師会 3F 講堂（研修室）
- 議 題 あらかじめ送付する総会議案書による

- その他 定時総会終了後に、令和 2 年度山口県獣医師連盟通常総会を開催します。

なお、新型コロナウイルスの拡大に伴う政府からの会合等、今以上の強い自粛要請があった場合には、理事会を含め定時総会の開催方法を変更することがあります。

## 2019年度第5回理事会開催報告

常務理事 福島和彦

去る令和2年3月12日（木）に、標記理事会を県獣会館2階会議室において開催（13：30～15：00）されましたので、開催内容についてお知らせします。丁度、新型コロナウイルス感染症について、WHOが「パンデミック」を公表した日でもあり、各種イベントや会議の自粛を促されている時期ではありましたが、公益法人として行政庁に対し今年度末までに次年度の事業計画書、収支予算書の提出や理事会承認を得なければならない案件が多く、理事・監事の方々に、ご理解・ご協力を得て開催の運びとなりました。

開催に当たり、田中尚秋会長理事から、多忙な中での出席、平素からの事業等への理解と協力に対する謝辞の後、次のような挨拶がありました。

新型コロナウイルス感染症による各種イベント、行事が中止される中での理事会の開催協力についての謝意と今回の理事会にあっては、重要案件があり、緊張感を持ってスムーズな運営への協力をお願いする。海外では、新型コロナウイルス感染者の飼育する伴侶動物への感染報告もあり事務局からの情報提供と今後の発表等を注視したい。

なお、本日の理事会は次年度事業計画・予算関連事項もあり、忌憚のない活発な意見を出していただきたい旨要請がありました。

この後、常務理事から出席理事数13名中12名、監事数全員の報告があり定款の定により理事会成立の宣言がありました。

次いで、定款の定に従い会長が議長となり、議事録署名人に、会長及び出席した3名の監事、書記及び議事録作成者に常務理事が指名され、当人の承諾と同時に議事に入りました。

### 第1号議案：今年度事業の進捗状況について （報告事項）

今回の事業進捗状況報告は、業務執行理事である会長理事、副会長理事、常務理事が業務執行状況を兼ねたものであり、主として第4回理事会以降の業務を中心に報告が行われました。

議長は、報告内容について質疑の有無を諮り皆無であることを確認し、本議案は、全会一致で了承されました。

### 第2号議案：令和2年度事業計画及び事業予算（案） について（承認事項）

配付資料に沿って事業計画について、特に次年度の重点事業をOne HealthとしてSFTS対策及び災害対策、マイクロチップ装着推進とする旨の説明があり、その他、学会開催等について説明を行いました。

学会開催については、令和2年度 獣医学術中国地区学会の開催予定が本年10月10日（土）から11日（日）に岡山県コンベンションセンターであり、抄録の提出が9月4日（金）が予定されていること、これに併せて県獣医学会は、学会運営委員会で決定されることとなるが、8月中下旬の開催が見込まれることの説明を行いました。また、令和2年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会については、令和3年1月22日（金）から24日（日）に神戸国際会議場、神戸国際展示場での開催予定であることも説明し、多くの会員参加の呼び

かけが行われました。

次年度事業予算については、収支予算書（案）により説明が行われ正味財産増減において主たる増減事項として受取会費（特別会費）の増加内容の説明が行われ、経常費用部門では、通信運搬費の増加があるもののホームページ作成に伴う経費の増とコンピューターの更新経費の計上、その他、開催を予定している講習会充実等のため経費計上を実施した旨を説明しました。

議長は、説明内容について質疑の有無を諮ったが皆無であることを確認した後、本議案は出席者全員が承認しました。

### 第3号議案：令和2年度会費徴収（案）について （承認事項）

次年度の一般会費及び特別会費の徴収について次のとおり説明をおこないました。一般会費の納入期限を令和2年7月31日（金）とし、特別会費については、集合注射を令和2年7月31日、個人注射にあっては、2期に分け、令和2年10月末、令和3年3月末とするこの説明を行いました。

議長は、説明内容について質疑及び提議の有無を諮ったが皆無であることを確認した後、出席者全員が承認しました。

### 第4号議案：山口県獣医師会規則・規程等の改正について（承認事項）

第4回理事会において提出・配布を行った規則・規程について、今理事会の開催までに内容検討を依頼したが、特に内容の照会・疑義も無かった事を説明し、については、今回の理事会で承認、4月1日施行したい旨を説明しました。

議長は、説明内容について質疑及び提議の有無を諮ったが皆無であることを確認した後、出席者全員が承認しました。

### 第5号議案：資金調達及び設備投資に係る見込み（案） について（承認事項）

令和2年度においては、資金調達・設備投資の見込みがないことの説明を行い、議長は、説明内容について質疑及び提議の有無を諮ったが皆無であることを確認した後、出席者全員が承認しました。

### 第6号議案：狂犬病予防注射新規指定獣医師及び指定解除者について（報告事項）

議案内容である狂犬病予防注射新規指定、解除者について報告を行いました。その折、「諸般の事情により新規指定者の辞退について、今期で新規指定の承諾を得ていることから、来期の承諾は不要ではないか。」の質疑がありましたが、「諸事情による辞退であっても、次期の新規指定の承諾は必要である」旨を事務局より回答しました。

議長は、報告内容について質疑の有無を諮り皆無であることを確認、本議案は、全会一致で了承されました。

### 第7号議案：狂犬病予防事務に係る事故補償対策準備資金の取崩措置について（承認事項）

狂犬病予防事務に係る事故補償対策準備金の取崩措置について説明を行いました。集合注射にあっては、従前4月1日から4月末までの保険期間契約でしたが、一部の市町で5月にずれ込む可能性があり、契約期間

の延長に伴う保険掛金額の増加の可能性がある旨を説明しました。

議長は、説明内容について質疑及び疑義の有無を諮りましたが皆無であることを確認した後、出席者全員が承認しました。

#### 第8号議案 理事の辞任について（報告事項）

岡村理事から体調不良による辞任届があったことの報告を行い、議長は、報告内容について質疑の有無を諮り皆無であることを確認、本議案は、全会一致で了承された。

#### 第9号議案 職員の再雇用について（承認事項）

現書記から再雇用規程に基づき再雇用願いが提出されたことをし、雇用内容及び条件について、詳細な説明をし、承認を求めました。

議長は、説明内容について質疑及び提議の有無を

諮ったが皆無であることを確認した後、出席者全員が承認しました。

#### その他（連絡事項等）

県獣医師会ホームページの全面更新、獣医師会館周囲のフェンスの修繕、今年度の年次学会時に日本獣医師会の境専務理事から説明があったマイクロチップ装着事業の概要説明及び日本獣医師会のホームページに掲載のあった新型コロナウイルスに係る犬の感染事例記事の情報提供をおこないました。

議長は、その他、質疑及び提議の有無を諮ったが皆無であることを確認し、すべての審議が終了したことを告げ、議事が終了したことへのお礼を旨とする退任の挨拶が行われた。

最後に、中越副会長が、活発な議論に対する謝辞を述べた後、理事会は閉会となりました。

## 日本産業動物獣医学会

産業動物獣医学会地区幹事 田 浦 保 穂

(山口大学共同獣医学部)

令和元年2月7日（金）～9日（日）、東京都有楽町駅前「東京国際フォーラム」において、今年度の年次大会（日獣会）が開催された。2月7日昼から産業動物学会（産動学会）幹事懇談会及び2月8日昼から三学会幹事会がG507室及び第2会場で開催された。佐藤れえ子学術担当理事の進行で鋭意協議の結果、懸案であった獣医学術地区学会の業務分担問題等に対する内閣府公益認定等委員会の指摘を受けて、『本年4月1日施行予定だった「獣医学術地区学会運営規程」の廃止及び「日本獣医師会学会運営規程」の一部改正については当面延期し、各地方獣医師会での調整機関を経て令和4年4月1日からの施行を目標とする。』結論になった。金曜午後から各学会別に地区学会長賞受賞講演が行われ産動学会は19題であった。動物種別にみると例年通り牛を対象にしたものが、項目には感染症系（ウイルス・細菌など）が多く、次に繁殖系、外科系、内科系での発表であり、佐藤 繁同学会会長を中心に審査が行われた。2月8日午後に同学術賞発表と合わせて、学術奨励賞「毛包を用いた免疫ペルオキシダーゼ法による牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の簡易検出法（福成和博氏）」及び功労賞（酒井健夫氏）の報告・授与式があった。参加者数は事前登録者800名と近年では非常に少なく、会場の選定や運営費高騰及び懇親会内容等が参加者減の1要因だろうとの指摘があった。次回の神戸市での開催では鋭意検討を願う。

三学会の各企画が初日から7会場(昨年5会場)で同時に開催され、会場が大きく聴衆数に差があった。私が参加した会場は参加者が多くて熱気を感じた。獣医師会・医師会・厚労省の「One Health連携シンポ～ダニ媒介感染症と予防対策」では、元・山大共同獣医学部の前田 健先生（現・国立感染研）の「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の現状（動物編）」の他5名の講演があり、多くの聴衆の興味を刺激し感動した。産動学会・日獣シンポには、①

【獣医療提供体制整備推進総合対策事業（獣医療提供事業）】、「越境性疾病の侵入防止強化～2020東京オリンピックを控え、多数の外国人が入国する事態に備えた防疫対策を強化する～：ASF（アフリカ豚コレラ）、口蹄疫、わが国の越境性動物疾病に対する水際検疫の強化」及び②「アジアで広がっている家畜伝染病の病理：ASF、豚流行性下痢（PED）、家畜のアルボウイルス感染症、口蹄疫」は新型コロナ肺炎にも通ずる内容であった。③「獣医師の働き方改革、新たなステージへ一乗り遅れないためのヒントー（獣医療提供事業）」では柴内裕子氏の【基調講演】日本初の女性臨床獣医師からのメッセージ～人類は地球上の全ての命の責任者 獣医師こそ地球を救う～他4名の講演が栗本まさ子氏座長のもとであった。④「獣医師に求められる知識・能力と役割」（獣医療提供事業）、「抗菌剤の代替としてのワクチン、プロバイオティクス（獣医療提供事業）」、⑤「糖代謝～生体機能から臨床まで」、⑥「乳牛の周産期の飼養管理と疾病管理に関する最新知見（獣医療提供事業）」、⑦「動物愛護管理法改正を知る」、⑧「動物愛護管理法改正下の獣医師及び獣医師会の役割」、⑨「CSF（豚コレラ）（現状と対策）（獣医療提供事業）」、⑩「農場HACCP認証制度とスマート農業・畜産の推進に向けた管理獣医師の役割（獣医療提供事業）」、⑪「馬術競技における獣医師の役割、オリンピックイヤー2020を迎えて：天谷友彦氏（山大臨床教授）他」、⑫「子牛の代用乳給与アップデート（獣医療提供事業）」、⑬「CSF（豚コレラ）対策として求められる野生イノシシの生態学的・行動学的知見と防疫対応の考え方」および「一般公演・研究報告」等、多岐にわたる講演やシンポジウムがあった。また、令和4年11月12日～16日の予定で学会年次大会及び第22回アジア獣医師会連合会（FAVA）が福岡市（シーホーク）で開催されるとの報告があった。

## 日本小動物獣医学会

小動物獣医学会地区幹事 白 永 伸 行

(シラナガ動物病院)

本年度年次大会が2月7日(金)～2月9日(日)に東京国際フォーラムで開催された。小生が本県獣医師会の小動物学会幹事として出席したので、小動物分野に関するトピックを中心に報告する。初日は地区学会長賞受賞講演があり、19演題の発表があった。最優秀賞である獣医学術学会賞は酪農学園大学廉澤剛先生の「犬の膀胱移行上皮癌に対して膀胱全摘出後に尿管を尿道/包皮/膺/腹壁乳頭に吻合した31症例」であった。個人的には「ウサギの粘液性腸症の治療法の検討」という地道にライフワークな治療法をまとめたものに好感を持った。

2日目は研究報告と一般口演が開催された。小生も山口県獣医師会小動物部会のアンケート結果を基にした「山口県における動物病院開業獣医師のSFTSに対する意識調査」を研究報告で発表させていただいた。また日本医師会、厚生省と共催のOne Healthの連携シンポジウムがあり、SFTSに関する講演も行われた。その中で自身が感染した宮崎県の勤務獣医師の講演(経験談)には固唾を呑んで聞いていた方も多かったと思われる。午後は薬剤耐性菌に関する教育講演が行われた。とかく抗生物質の乱用による耐性菌の発生は、実は収益の面からも乱用せざるをえないケースなど獣医療から発進されている例も多く、ここでもOne Healthの一員として我々獣医療側も注意

すべきだと思われた。同日夜には歓迎交流会が行われた。今年は地方色がなく、そして新型コロナウイルスの感染リスクが増加していることもあって、参加者に関してやや盛り上がりかけるも、全国諸氏の旧交を温める場面は例年通り数多く見られた。

3日目は愛玩動物看護師法のシンポジウムに参加した。小動物分野では非常に重要である動物看護師の国家資格において日本獣医師会と農林水産省、環境省の共催という形で、成立までの経緯、法の概要、今後の取り組みへのレクチャーが行われた。私個人の理解した範囲で恐縮だが、内容としては国家試験は結構簡単じゃないレベルを環境省が設定しているのでは?という心配と、資格によって何が出来るか?また無資格者は今後小動物医療の現場でどうなっていくのか?の言う懸念が今回のシンポジウムでは解消できなかった。日本動物看護師協会の代表からは切実な過程を経てここまで来たことも紹介され、改めてこの国家資格を大切にしていかなければ未来は明るくないと思われた。この件に関しては、おそらく移行期間も含めてまだかなりの時間はあるので、山口県獣医師会でも議論や意見交換などはスムーズにできるように環境作りをしていく必要があると思われた。

## 日本獣医公衆衛生学会

会長理事 田 中 尚 秋

令和2年2月7日から9日まで東京国際フォーラムにおいて令和元年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催され、獣医公衆衛生学会地区学会幹事の度会雅久先生は重要な学内用務があり学会出席が叶わないとのことで、小職が日本獣医公衆衛生学会に参加したので、その概要を報告する。

まず、初日の午後1時から第5会場(ガラス棟6階G610)で九州大学 大気海洋環境研究センターの磯部篤彦先生から「海洋プラスチック汚染～マイクロプラスチックからマイクロプラスチックまで～」と題して廃プラスチック問題に係る教育講演が始まったので、One Healthの観点から地球の環境保全を考える意味において参加した。プラスチックは紫外線や温度変化により劣化し、砕けて次第に細かくなり、数ミリ以下となったマイクロプラスチックはプランクトンと同程度の大きさで、誤食を通して海洋生態系に紛れ込んでいくという。プラスチックを日常的に使用しその便利さを享受している我々一人ひとりが、使ったものはきちんと回収し不用意に環境汚染を起こさないよう注意すべきであると再認識させられた。

続いて獣医公衆衛生部門の地区学会長賞受賞講演11題の口講発表が始まった。今回は、薬剤耐性菌関係が4題と最も多く、と畜検査関係が2題、その他5題であった。中でも、食中毒防止のための研究発表、猫のレプトスピラ保菌状況調査、動物愛護関係等の発表はたいへん興味深く聴講した。特に長野県動物愛護センターの浦野絵梨先生による「困難を抱える子ど

もへの動物介在活動による支援事業」は、個人的にも今回最も聴講したい演題の一つであった。同センターでは、2000年の開所以来「ハローアニマル子どもサポート(不登校や教室以外の場所で過ごす子どもを対象に動物介在活動により支援する)」事業を実施されてきたそうであるが、2018年度から県の総合5か年計画の中で、自殺対策強化の施策の一つとして位置付けられたこともあり、全県下に展開させることを目標に「おでかけハローアニマル子どもサポート」を新しくスタートされたということである。子どもサポート専門の臨時職員として動物介在活動コーディネーターが配置されて取り組まれている等、まさに斬新的な内容のご発表であった。引き続き「獣医学術奨励賞」受賞者記念講演があり、北海道根室保健所の深江征雄先生の「養豚場における食肉検査結果の決定要因の主成分分析による解析法」を聴講した。食肉検査データ等と、農場アンケートで得られた飼養条件を数値化した説明変数との重回帰分析等を行い、決定要因の特定を試みたという統計処理手法関係のご講演であったが、浅学菲才な自分としては少し難解であった。

2日目は、同室で午前9時から一般口演5題及び研究報告9題の発表があった。同じ時間帯に日本獣医師会(以下「日獣」)、日本医師会、厚生労働省の「One Healthに関する連携シンポジウム～ダニ媒介性感染症と予防対策」があったためそれと併行しながら聴講した。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)については、国立感染研の西條政幸先生、前田健先生等、当

会にとっては馴染みの先生方のご講演であり、昨年末に山口県でシンポジウムを開催できたことは誠に光栄であったと改めて再認識した。その他、紅斑熱、ダニ媒介脳炎等のご講演の後、最後に宮崎県で実際にSFTS発症を経験された小動物臨床医の奥山寛子先生のご講演があった。当会にとって、SFTS感染防止対策は最重要課題の一つと捉えているので、奥山先生が病院で実施されている感染防止対策等はいへん参考になった。

午後から獣医学術賞の授与式があり、表彰式終了後、日獣の教育講演「動物愛護管理法改正を知る」、シンポジウム「動物愛護管理法改正下における獣医師及び獣医師会の役割」に出席した。日獣の堺 正人副会長兼専務理事からマイクロチップ（MC）による動物個体登録事業についての地方獣医師会との連携と将来構想が説明された。今後、日獣が指定登録機関として認定されるよう熱望するばかりである。続いて、日本獣医生命科学大学の田中亜紀先生から動物虐待に対する獣医師の役割について講演があった。今回の法改正で、動物虐待罪の厳罰化が図られ、また虐待を受けたと思われる動物を発見した獣医師に報告義務が課されただけに受講者も多く、小職も深い関心を持って聴講した。

**最終日**は、「野生動物の有効利用と注意すべき感染症」、午後から「最近話題の食中毒」というテーマでシンポジウムがあった。国産ジビエ認証制度の制定・

運用等、野生動物の有効利用を推進している方々と野生動物による感染症の蔓延等を危惧している獣医師との間には、考え方等にかかなりの温度差があるように感じられた。家畜（牛・馬・豚等）及び食鳥の処理には、獣医師等が検査を行い可否の判定を行っている（と畜検査・食鳥検査）。人獣共通感染症等が大きな社会問題となっている昨今、ジビエを推奨するに当たっては、一定の資格を有する者（獣医師、あるいは資格認定講習会受講者等）による検査制度の導入が必要不可欠であろうと感じた次第である。

午後からは日獣の市民公開シンポジウム「CSF(豚コレラ；豚熱)対策として求められる野生イノシシの生態学的・行動学的知見と防疫対応の考え方」、同じ時間帯に行われた公衆衛生シンポジウム「話題の食中毒」に演題を選択しながら出席した。イノシシの防護柵の設置の仕方、経口ワクチンの散布の仕方等、イノシシの特性、運動能力等を知り漫然と対応してはいけないことなど大いに参考となった。一方、アニサキスによる食中毒について、2018年には、すべての食中毒事件の中で、事件数で第1位となったとのことである。この食中毒は古くて新しい食中毒であることを再認識し今回また新たな知見が得られ大いに参考となった。

本年度の学会は、日獣が単独で開催されたものであるが、内容的にも例年同様充実していて担当された皆様方に深く敬意を表したい。

## リレー随筆

### 「三度目の卒業」

豊浦支部 富 永 潔  
(山口県西部家畜保健衛生所)

昭和55年4月に山口県に採用され中部家畜保健衛生所防疫課技師として社会人人生が始まった。萩青年の家での新規採用職員研修から戻るとすぐ、故上田武利課長の指揮のもと、阿東町での乳用牛の結核・ブルセラ病検査から始まり、3月のふそ病検査で年度終了という1年を3回経験した後、病性鑑定室細菌検査担当に配置換えとなった。初めは生化学担当を希望していたのだが、故斉郷文昭氏の突然のご逝去により、その後任を命じられた。この偶然、しかも私の誕生日に亡くなられたという奇跡のような偶然により、私はその後、16年間という長きにわたり細菌検査担当として、わが国初めての病原体をいくつか分離し、これまで知られていなかった細菌感染症の新知見を明らかにすることができたのも、斉郷さんのお陰だと深く感謝している。平成11年4月に、当時では考えられなかった健康福祉部の環境保健研究センターに異動することができた。最初の3年間はウイルスグループに所属し、インフルエンザウイルス検査を担当した。これまた幸運にも3年間流行したのはMDCK細胞であつという間に分離できるH1N1亜型(Aソ連)で、うがい液採材から最短3日で結果報告したら、健康増進課から「どうしてこんなに早く結果がでるのか」と怪しまれたほどであった。その後念願の細菌グループに配置転換され、動物由来細菌感染症の研究では、国立感染症研究所から一目置かれ、溶連菌やカンピロバクターのレファレンスセンター業務でも活躍できた。さらにわが国

初のSFTS症例では、猫に咬まれて死亡した人間の材料を山大獣医学部の前田先生に送付するよう県中の担当医に助言し、これがウイルス分離成功につながった。平成27年3月の一度目の「卒業」の後、民間の深川養鶏に再就職できた。ここでも幸運に恵まれ、私が就職する直前の冬に深川養鶏でHPAIが発生しており、私が就職した後の3年間は発生することなく平穏に推移した。長く勤めてほしいという言葉と裏腹に、わずか3年で契約満了と言われたため、古巣の県職員再任用を志願し、現職場である西部家保にすぐに再就職することができた。西部家保の2年間は、鶏担当として前職場である深川養鶏関係の仕事をスムーズにこなすことができた。もちろん2年間HPAIの発生はなく、しかも全国的にHPAIは影を潜めてしまうという幸運にも恵まれた。

35年にわたる県職員現役の人生をわずか1回の転勤で終えることができ、また初めての民間での仕事も、その後の県職員としての仕事も、大過なく無事に終えることができそうで、三度目の「卒業」を間近に控え、私は何と幸運に恵まれた人間であろうかと、心から幸せを感じている。「三度目の卒業」のあとは、またまた初めての経験である小動物関係の仕事に就く予定で、ここでもまた、幸運に恵まれることを心密かに願っている。

次回は、同じく東部家保再任用を卒業された川戸彰弘さん(玖珂支部)にバトンタッチします。

## 会員の異動

春の人事異動により次のとおり会員が異動されました。

### 1. 山口県職員

退職者（令和2年3月31日付け）

藤 津 良 樹（環境保健センター保健科学部 部長）  
石 川 豊（柳井農林水産事務所畜産部 部長）  
恵 本 茂 樹（下関農林事務所畜産部 部長）

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
環境生活部	環境生活部	徳 重 克 彦	部次長	審議監
	生活衛生課	白 銀 政 利	審議監兼生活衛生課長	生活衛生課長
		殿河内 英 雄	食の安心・安全推進班 主幹	山口健康福祉センター保健環境部 生活環境課 課長
		西 本 忠 弘	食の安心・安全推進班 主任	岩国健康福祉センター保健環境部 生活環境課廃棄物・環境指導班 主任
		福 田 達 也	食の安心・安全推進班 技師	山口健康福祉センター保健環境部 食品衛生課 技師

健康福祉部	岩国健康福祉センター	福 田 栄 作	保健環境部 主幹	環境政策課 水環境班 主幹
		上 野 佳 子	保健環境部食肉検査課 主査	動物愛護センター指導課 課長
	周南健康福祉センター	金 藤 良 一	保健環境部生活環境課 課長	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査
		柳 谷 泰 夫	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主任	宇部健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
		竹 田 学	保健環境部試験検査課 主任	岩国健康福祉センター保健環境部 食肉検査課 主任技師
	山口健康福祉センター	西 藤 裕一郎	保健環境部 副部長	廃棄物・リサイクル対策課 産業廃棄物指導班 調整監
		野 村 恭 晴	保健環境部生活環境課 課長	環境保健センター保健科学部 専門研究員
		松 清 みどり	保健環境部食品衛生課 課長	長門健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
		渡 邊 菜 摘	保健環境部食品衛生課 主任	山口健康福祉センター保健環境部 食品衛生課 主任技師
		小 山 沙 紀	保健環境部食品衛生課 主任	宇部健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任技師
	宇部健康福祉センター	大 山 昌 志	保健環境部 主幹	周南健康福祉センター保健環境部 生活環境課 課長
		木 村 雅 美	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	山口健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
		吉 屋 昌 洋	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主任	生活衛生課食の安心・安全推進班 主任
	長門健康福祉センター	鬼 木 宏 幸	保健環境部生活環境課 食品衛生班 主査	周南健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主任
	動物愛護センター	山 縣 愛	指導課 課長	山口健康福祉センター保健環境部 生活環境課食品衛生班 主査
	環境保健センター	吹 屋 貞 子	保健科学部 専門研究員	周南健康福祉センター保健環境部 試験検査課 課長
		松 本 知 美	保健科学部 専門研究員	山口健康福祉センター保健環境部 食品衛生課 課長

	〈新所属〉	〈氏名〉	〈役職〉	〈旧所属〉
	産業戦略部 産業イノベーション推進	吾 郷 英 昭	主査	農林水産部畜産振興課 衛生・飼料班 衛生グループ 主査
農林水産部	畜産振興課	稲 吉 洋 裕	衛生・飼料班 衛生グループ 主査	長門農林水産事務所畜産部 畜産振興課 課長
		伊 藤 優 太	生産班 主任	山口農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 主任
	柳井農林水産事務所畜産部	宮 本 和 之	部長	下関農林事務所 畜産部 副部長
		弘 中 由 子	保健防疫課 主査	柳井農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 主任
		横 山 明 宏	保健防疫課 主任	柳井農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 主任技師
	山口農林水産事務所畜産部	入 部 忠	病性鑑定室 主査	下関農林事務所 畜産部 保健防疫課 主任
		遠 藤 泰 治	病性鑑定室 技師	萩農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 技師
	下関農林事務所畜産部	柳 澤 郁 成	部長	山口農林水産事務所 畜産部 副部長
		鳴 重 寿 人	保健防疫課 主任技師	山口農林水産事務所 畜産部 病性鑑定室 主任技師
	長門農林水産事務所畜産部	村 田 希	畜産振興課 主査	長門農林水産事務所 畜産部 畜産振興課 主任
		前 田 翔 一	畜産振興課 主任技師	長門農林水産事務所 畜産部 畜産振興課 技師
	萩農林水産事務所畜産部	笠 井 亨 浩	保健防疫課 技師	農林総合技術センター 畜産技術部 育成業務課 技師
	農林総合技術センター 担い手支援部	長 尾 裕美子	畜産課 主任	農林総合技術センター 畜産課 主任技師
	農林総合技術センター 畜産技術部	鶴 田 祐 哉	育成業務課 技師	山口農林水産事務所 畜産部 保健防疫課 技師

## お知らせ

### 日本ウマ科学会「認定馬臨床獣医師」認定のための第二回認定試験のご案内

日本ウマ科学会は、我が国の馬臨床獣医師が備えるべき専門知識と臨床技術に関する最新の水準を明示し、馬臨床獣医師の質的レベルを一般社会に広く開示することを目的に、2019年から馬の臨床を専門とする獣医師の認定を行っています。つきましては、第2回認定試験を下記のとおり実施されます。

#### 1 試験日時

2020年12月1日（火曜日）13:10-14:10（60分間）（第33回日本ウマ科学会学術集会に付帯して開催）

#### 2 試験会場

KFC Hall & Rooms (Room 103,10F)

〒130-0015 東京都墨田区横網(よこあみ)一丁目6番1号(都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口より徒歩0分)

#### 3 試験の科目

試験科目は別に定める認定馬臨床獣医師モデル・コア・カリキュラム項目（Competences for VETCEE accredited equine programs）ならびに関連項目より出題されます。

#### 4 受験資格

次の各号に示す条件をすべて満たした方について受験が認められます。

- (1) 本会の会員であること
- (2) 馬専門の臨床獣医師として5年間以上の職歴を有すること

#### 5 受験手続

##### (1) 提出書類等

ア 受験申込み票

イ 履歴書（研究歴を含む市販A4版、写真添付）

ウ 受験料を所定の銀行口座に振り込み、その振込みを証明する書類のコピー

## (2) 受験手数料

- ① 受験手数料は、10,000円です。
- ② 提出書類等を受理した後は、受験手数料は返還されません。

## (3) 振り込み先

みずほ銀行

山口支店 (店番号643) 口座番号：(普通) 3003142

名義：日本ウマ科学会臨床委員会

## (4) 提出書類等の受付期間及び提出場所

- ① 受付期間は2020年9月1日(火曜日)から同年10月30日(金曜日)まで。
- ② 提出書類等の受付場所は認定事務局株式会社アイペック(〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-12)です。2020年10月30日(金曜日)までの通信日付印のあるものまで受け付けられます。

## 6 その他

詳細については、下記をお願いします。

山口大学 共同獣医学部 大動物臨床学研究室 佐々木直樹教授

E-mail: nsasaki@yamaguchi-u.ac.jp

〒753-8515 山口市吉田1677-1 TEL:083-933-5873 FAX:083-933-5873

## 「書評」

## 大竹 修 著 「獣医学の狩人たち2—20世紀の獣医偉人列伝」

山口支部 中間 實 徳

(山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース教授)

旧友であるNOSAI岡山家畜臨床研修所元所長・大竹 修 博士の「獣医学の狩人たち2—20世紀の獣医偉人列伝」が2020年3月1日付けで前回と同じく、大阪公立大学共同出版会から刊行されたので紹介する。

今回は、以下に紹介する20名の故人の先生方であり、色々な方面から資料を取り寄せ、大竹先生の並々ならぬ情熱と良くこなれた文章でエピソードを交え、読者が興味を持つように書かれている。これまでの獣医偉人列伝に出ている先生方は、動物臨床医学会発行の「動物臨床医学」雑誌に連載されたものに肉付けして、さらに詳しく紹介されている。

今回紹介されている先人たちは下記の通りの20人である。

- ① 麻布大学中興の祖：中村道三郎 (1878—1962)
- ② 獣医解剖学の先覚者：大澤竹次郎 (1881—1969)
- ③ 日本獣医史学会生みの親：田中丑雄 (1889—1982)
- ④ 獣医・畜産ジャーナリストの大御所：白井恒三郎 (1899—1992)
- ⑤ ケトーススを発見したルミノロジーの提唱者：  
梅津元昌 (1901—1985)
- ⑥ 史上最大の伝染病「牛疫」根絶の立役者：中村稔治 (1902—1975)
- ⑦ 獣医内科診断学の権威：中村良一 (1909—1995)
- ⑧ 装蹄学の大家：北 昂 (1910—1986)
- ⑨ 家畜人工授精研究の世界的権威：西川義正 (1913—1994)
- ⑩ 北里大学に獣医学部を創った人：椿 精一 (1913—1992)
- ⑪ イリヤマテネコやニホンオオカミ研究の第一人者：  
今泉吉典 (1914—2007)
- ⑫ “ミスター乳房炎”と呼ばれた研究者：桐沢 統 (1916—2002)
- ⑬ 牛の第四胃変位と蹄病の予防治療普及活動：  
幡谷正明 (1916—2009)
- ⑭ 獣医繁殖学の発展に貢献：藺守龍雄 (1920—2017)
- ⑮ 世界的な食中毒菌研究者：阪崎利一 (1920—2002)
- ⑯ 獣医繁殖学の重鎮：三宅 勝 (1920—2018)
- ⑰ 胚(受精卵)移植技術の先駆者：杉江 佶 (1923—2013)
- ⑱ 風土病と分娩期代謝障害研究の先覚者：村上太蔵 (1925—1996)
- ⑲ ボツリヌス中毒研究の世界的権威：阪口玄二 (1927—2011)
- ⑳ エルシニア研究の第一人者：坪倉 操 (1930—2013)

なお、大竹 修 先生の著書「獣医学の狩人たち—20世紀の獣医偉人列伝」の書評は、山口県獣医師会会報(平成29年6月号、第673号、p. 3)に私が書いているので、参考にして頂きたい。大竹先生は現在も「動物臨床医学」雑誌に「日本の近代獣医学史」と題して掲載中であり、先生の今後益々のご活躍を祈る次第である。



大竹 修 著：  
「獣医学の狩人たち2—20世紀の  
獣医偉人列伝」pp.378  
ISBN978-4-909933-15-7  
定価 2,200円+税  
発行所  
〒599-8531  
大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学内  
大阪公立大学共同出版会  
TEL:072-251-6533 FAX:072-254-9539



## 養豚防疫研修会を開催

県庁支部 吉本 侑里  
(農林水産部 畜産振興課)

令和2年2月26日(水)、中部家畜保健衛生所において、公益社団法人山口県畜産振興協会との共催で、養豚防疫研修会を開催しました。

国内でのCSFの継続発生やASFの侵入リスクの高まりを受け、国が作業を進めている家畜伝染病予防法の一部改正についての情報提供やCSF等の防疫対策の再徹底について、養豚農場管理者や関係者など41名にご参加いただき、本研修会を開催しました。

研修会の内容ですが、CSF及びASFの発生状況や防疫対応について説明を行った後、CSF及びASFの病性・疫学、そして家畜伝染病予防法の一部を改正する法律案の概要について担当者から情報提供させていただきました。

また、養豚場でのワクチン接種については、令和2年2月26日時点で21都府県がワクチン接種推奨地域に指定されています。本県はワクチン接種推奨地域に指定されていないものの、接種を開始している県の状況等について説明を行い、万が一、本県で接種が始まった際に速やかに接種を開始できるよう、ご協力を

お願いしたところでした。

また、沖縄の事例では、発生が野生いのししによるものではなく、非加熱の食品残渣の給与が原因として疑われていることも踏まえ、飼料安全法の改正等についても情報提供させていただきました。

まだまだ予断を許さない状況にありますが、今後も、絶対に発生させないという気概のもと、養豚関係者におかれては養豚農場の防疫対策に遺漏が無いようしっかりと取り組んでいただき、関係者の皆様と連携を図り、より迅速且つ的確な防疫体制の構築に努めていきたいと考えております。



研修会の様子

## 最近の減量法

熊毛支部 菅原 淳也  
(菅原獣医科医院)

以前は想像もしなかったことですが、健康診断でLDLコレステロールの上昇が認められたり、体脂肪率が標準の上限値になったり、体重のコントロールが困難になってきたり等、確実にアラフィフの階段を登り始めていることが無視できなくなって参りました。

やはり若い頃と同じような食生活ではダメなんだと思い、改めて自身の食生活を振り返ってみると、いやむしろ振り返らずとも分かりきったことなのですが、間食・夜食の食べ過ぎ、大いに自覚があります。

大体、年間2回のきっかけがありまして、1度目は春の予防関係の薬剤にオマケとして頂ける明〇製菓の日本を代表するチョコ菓子。2度目は年末、ありがたいことに私を含めスタッフ全員に、とあるクライアントが用意してくださる、普段とても自分では買わないような高級なお菓子。どちらもチョコがまぶしてあるサクサクしたやつです。これらを皮切りに、昼食・夕食後に何かチョコ系菓子を食べずにいられない中毒状態に陥ってしまいます。特に年末は、そのまま年越し～年明けの高カロリー摂取へと繋がり、そして春へと、サッカー強豪国のパスのように上手く連携していきます。

このような「糖中毒」とでも呼べるような状態では、不意に衝動的な食欲に取り憑かれることが多く、これを抑えるのは相当な集中力を必要とするようで、もはや精神の鍛錬以外の何者でもありません。どうかしてこの突発的な衝動をコントロールできないか？ここで思いついたのが「プラモデル」です。

プラモデルの組み立てに集中・没頭することで少しでも食欲を抑制できないかと思ったわけですが、これがなかなか効果的です。無限とも思えるようなラインナップから主に選んだのは皆様ご存じの「ガンダム」。ディテールの再現度や組立の難易度によっていくつかのシリーズがあるのですが、そもそも組み立てることそのものが目的のため、完成までのハードルが高い



ものは避け、完成させることによる小さな達成感を何度も得られる事が重要です。よって、最も初心者向けとされる「HG (ハイグレード)」から選びます。できるだけ安いモデルを選べば¥600くらいからキットが購入できます。

組立にはそれなりの集中力が必要ですが、うまく没頭できて、また面倒で投げ出したくなるようなものでもなく、「甘いものが食べたい」という気持ちは確実に抑制できます。完成したモデルにはあまり思い入れがないので、つぎつぎと子供のオモチャが増えていきます。

山口県東部のあるあるですが、放送当時テレビ朝日系のチャンネルがほとんど受信できなかったこともあり、実を言うと私、世代的にはほぼど真ん中にも関わらず「ガンダム」の世界をほとんど知らないんです。ガンダムシリーズに思い入れの強い方、もっとキッチリ塗装など施工して製作している方が相当数いらっしゃる中で、このような用途に利用してしまうのは大変失礼な気がしないでもないですが、「趣味とは言えない程度の軽く没頭できる世界」、なかなかおすすです。

仕事に没頭せい！、というご意見はご遠慮申し上げます(笑)

### 2019年度監査（予定）

- 1 日時 令和2年5月19日（火） 13：30～
- 2 場所 山口県獣医師会館
- 3 監査事項
  - (1) 2019年度事業について
  - (2) 2019年度収支決算について

### 令和2年度第1回理事会（予定）

- 1 日時 令和2年5月28日（木）13：30～
- 2 場所 山口県獣医師会館
- 3 議題
  - (1) 令和2年度定時総会上程議案について
  - (2) 新入会員について
  - (3) 令和2年度会長表彰について
  - (4) その他



### お知らせ

## 獣医師会ホームページの改修と会員専用バーナーの設置

会報3月号（第706号）でも紹介しましたが、獣医師会ホームページの改修が終了し、4月1日からリニューアルしました。これに伴い、「会員専用バーナー」を設置しました。IDとパスワードについては、今月会報に同封してありますので、ご活用ください。

### 注意喚起

## 家畜改良増殖法に基づく適正な家畜人工授精管理の徹底について

山口県畜産振興課から次の様な依頼がありましたので、関係獣医師にあっては、法令遵守を改めて、お願いします。

このたび、県内の農場から山口中央家畜市場を通じて県外に販売された和牛子牛において、遺伝子型検査で血統が一致しない事例が確認されました。

先般の和牛受精卵等の海外流出未遂事件等を踏まえ、家畜改良増殖法の遵守が求められている中、家畜人工授精業務の重要な責務の自覚を促すとともに、法令遵守の徹底について関係者に御指導いただきますようお願いいたします。

### お願い

## 会員の異動報告について

春の人事異動及び異動に伴う会員名簿の記載事項等変更が生じた場合には、4月13日（月）までに会員異動通知票により所属支部事務局まで、お忘れなく報告されますようお願いいたします。

### 事務局だより

3月に計画されていましたが多くの行事が、新型コロナウイルス感染防止のため中止・延期となりました。

- 3月12日 ・2019年度 第5回理事会 山口市（県獣会館） 3月12日、26日 事業推進会議
- 3月19日 ・会報編集委員会 山口市（県獣会館）

## 次回編集委員会 4月20日（月）13：30～

山口県獣医師会会報 第707号 令和2年4月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3) 編集責任者 上田 晋平  
 電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554 発行責任者 田中 尚秋  
 e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp 印刷 コロニー印刷  
 http://www.yamaguchi-vet.or.jp